

## 第2回 大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会

■日時 令和3年5月11日（火）午後2時～3時15分

■場所 四條畷市立グリーンホール田原

### 【議事要旨】

(1) 事務局から出席者紹介

(2) 主催者挨拶

(四條畷市長 東 修平)

本日は大変お忙しい中第2回大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会にご参画いただきありがとうございます。

現在、緊急事態宣言が発出され延長されている最中です。まず、この場をお借りして感染症に罹患され、お亡くなりになられた方、現在もなお入院等されている方々に対し、心からお見舞い申し上げますと共に、今なお第一線でご奮闘いただいている医療従事者を始め様々な方々に心から感謝と敬意申し上げます。ありがとうございます。

ワクチン接種については、本市は4月12日から高齢者等の方々に対し接種を行い、5月12日正午から85歳以上の方の予約が始まるという段階になっております。こうした感染症の真ただち中ですので、今回の開催もWeb等を活用した形となっております。我々、不慣れな点もありましてご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、何卒ご了承くださいましたらと思います。

この協議会の皆様には多大なるご協力を頂き事業が一步ずつ前に進んでいるところでございます。特に現地支援責任者である大阪国道事務所逢坂様には、未来技術社会実装事業を推進に向け様々な場面において、ご指導等を頂いているところでございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

引き続き、スマートシティというものを住民が暮らしやすくなるための手段としてどう進めていくのか、この観点を大事にしつつ、地域の声を伺

いながら一歩ずつ進めていきたいので、皆様の引き続きのご支援を頂きますようお願い申し上げます。簡単ですが開会の挨拶に代えさせていただきます。

(3) 現地支援責任者 挨拶

(国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所 逢坂所長)

日頃は、ご参加の皆様には、国土交通行政につきまして多大なるご支援ご協力賜っておりますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、四條畷市におかれましては、昨年度の内閣府未来技術社会実装事業に選定されまして、先進事例の視察や移動手段に関するアンケート等を実施いただいているところでございます。

我々といたしましては、アンケートの内容や地域の皆様のご要望をしっかりと踏まえ、四條畷市様をサポートしていきたいと思っております。

この自動運転が実装段階に向け着々と進みますよう現地支援責任者としての役割を果たしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(4) 議題 1：令和 2 年度の取り組みについて

事務局

**資料 1 の説明**

- ・ 7 月 3 1 日に内閣府における「未来技術社会実装事業」に全国 1 2 自治体の一つとして採択。
- ・ 1 1 月 1 8 日に第 1 回四條畷市未来技術社会実装協議会を開催。
- ・ 地域の方々に自動運転のイメージを持っていただくため、先進事例の視察を実施。

1 0 月 大阪万博記念公園、1 1 月河内長野市 南花台モビリティ

- ・ 地域の方々にスマートシティに関する取り組みを理解していただくため、「新たな日常」におけるスマートシティをテーマにフォーラムを開催。「会場参加者」と「WEB 参加者」のハイブリット形式で実施。

**田原地域における移動手段に関するアンケート調査の説明**

- ・令和2年12月から令和3年1月にかけて現地支援責任者である大阪国道事務所様の技術支援を受け「田原地域における移動手段に関するアンケート調査」を実施。
- ・アンケートの回収状況：地域全体で920世帯、2223人
- ・居住別：さつきヶ丘が最も多く、次いで田原台四丁目  
年齢：70代が最も多く、次いで60代、50代。
- ・田原地域内の主な拠点への外出状況  
グリーンホール田原・田原図書館：60代以上になると「週1回以上」  
田原台センター周辺：60代以上では約6割が利用している。  
どちらの施設も移動手段充実により増加すると回答した方が約2割。
- ・4 「移動」に対するニーズ  
将来の移動・外出機会の減少について、全体で約6割が「不安である」と回答、世代が上がるにつれて傾向が強くなっている。また、地域内の移動を支援する移動手段があれば利用するかの問いには、全体として約8割が「利用」または「将来は利用する」と回答。
- ・5 「新たな移動手段の導入について」  
自動運転に対する印象では「前向きな意見が多い」一方で「不安に思う」意見も多く利用するサービスとしては外出への利用や宅配サービスなどが多くなっている。  
実証実験に向けコースや車種選定については、地域の声を丁寧にお聞きし、持続可能なモデルの構築を目指す。

#### ・窓口業務のキャッシュレス化

令和2年4月27日に経済産業省における「自治体窓口及び公共施設のキャッシュレス化に取り組むモニター自治体」に全国29自治体の一つとして選定された。現在、クレジットカード決済は3種類、電子マネー決済は、交通系含め4種類、QRコード決済6種類の合計13種類の決済の導入が完了しています。窓口でのキャッシュレス化率は約10%程度。

(5) 議題2 「現地支援責任者について」変更点

**資料2の説明**

令和3年3月31日をもって、現地支援責任者さまの内閣府地方創生事務局の併任発令が解除され、業務プロセスの変更があった、各種照会文書が内閣府から直接、私ども自治体に照会されることになる。

これまでどおり現地支援責任者は、地方公共団体のワンストップ窓口として、目標達成状況の把握、相談に対する助言や複数事業間の総合調整、その他各種相談事業への対応について、内閣府と連携して実施していただき、私どもの実装に向けた支援を行う。

なお、所掌外の相談事項等について現地支援責任者様が国側構成員に情報提供し、私ども地方自治体には、当該構成員に具体的な相談を行うよう依頼する方法が明確化された。

(6) 議題3：令和3年度の事業予定について

令和2年度から令和6年度までのスケジュールについて昨年の11月時点から修正し、自動運転、買い物支援を中心に、より具体的に明記した。

**資料3-1の説明**

ICT機器を活用した認知症対策。3月15日～6月15日の期間、ICT機器を活用し医療・福祉に関する課題を解決する実証実験を実施中。

現状、対象者の方の自宅を訪問したチーム員が認知症の困りごと、心配事などの相談に対応し、訪問結果をチーム員会議のもと初期対応の方針を決定しているが、チーム員が認知症サポート医に口頭で情報共有する形では、対象者の表情や発言、会話の間など、視覚的な情報が不足。

この実証実験では、サポート医がオンライン参加し対象となる方と直接会話等を行い情報の共有化を行うもの。

すでに1家族の方がオンラインでサポート医と会話をし、受診につながったケースが報告されている。

### 資料 3 - 2 の説明

3月26日に社会福祉協議会と契約を締結。準備が整いしだい、実証実験を開始予定。

買い物支援に関する実証実験では、自宅に居ながら、自身が店舗に行っているようなリアル感のある買い物が可能であるか、また、その買い物で購買意欲をかき立てることができるのか、買い物の楽しさを味わうことができるかを確認する実証実験を行う。

事前に自宅にいる方が購入して欲しいものをリスト化し、それをもとに、支援者が商品を購入。お魚やお肉などの生鮮食品は、色や形に好みがあるので、画像をとおし商品を選んでいただき、買い物に対する楽しさや購買意欲に関する実証実験を行う。

### 資料 3 - 3 の説明

地域の方々が主体となり、イノシシの被害軽減を目的とし、設置する罠にIoT技術を活用したセンサーを取り付け捕獲の有無に関する実証実験を令和3年度中に行う。LPWAの電波を活用したIoTセンサーを罠に取り付け、捕獲の有無をスマホに通知する仕組みを構築。今後、設置場所等については、地元と大学等が参画し、決定する。

### 資料 3 - 4 の説明

自動運転に向けた基本構想を令和3年度中に策定し、併せて10～11月頃にプレ走行を予定。

現在公募型プロポーザルによる契約を行っている。5月10日現在、5社から一次審査書類の提出があった。審査を経て5月17日に一次結果通知書を発送、5月28日に二次審査を経て6月上旬に契約を締結予定。

- ・ 田原地域にある低利用地の活用策の協議

具体的に田原台センターにある、アカカベ薬局裏手にある未利用地の、土地所有者と建物所有者等と協議を重ね、地域の方にとっても良い高度利用を目指す。

- ・スマートシティ推進フォーラム

6月より準備を進め、10月16日にフォーラムを開催予定。

- ・夏休み子ども教室

地域の子どもたちに夏休みの間、「日本一前向き！コンソーシアム」の皆様のご協力を得て、新型コロナウイルスの感染状況をみて夏休み子ども教室の開催を8月頃に予定。

- ・ポケットWi-Fiの貸し出し事業

本施設利用者の利便性の確保から、ポケットWi-Fiの貸し出しを8月頃から開始する予定。

## (7) 質疑応答

(田原台さつきヶ丘自治会連絡会代表)

IOTを活用した買い物支援について、実際に買い物に行っていただけの方はどのように集めるのか。

(田原支所長)

今回の実証実験は四條畷市社会福祉協議会と連携し、地域での見守りを行って下さっている方を中心に支援をいただき、高齢者の方など在宅を余儀なくされている方を対象に買い物支援を行う予定。

(田原台さつきヶ丘自治会連絡会代表)

今回の試みでは高齢者などの限られた方のみが利用できるという形式か。

(田原支所長)

今回の実証実験は高齢者を含め在宅を余儀なくされている方を対象にしたものになる。その中で購買意欲や買い物の楽しさを実感していただき、実証実験の中で検証を行いながら可能であれば対象者を増やしていきたい。

(田原台さつきヶ丘自治会連絡会代表)

罾センサーは、イノシシだけではなく犬など動物が入っても反応するのか。  
(田原支所長)

今回のセンサーは罾の扉が閉まればセンサーが反応しスマートフォンなどの通知されるもの。イノシシ以外の小動物でも罾が作動すれば通知されることになる。今回の実証実験の趣旨は、イノシシ被害にお困りの方の負担軽減。センサーを取り付けることにより山の中に設置した罾を日々確認する手間を省き、効率良く確認できるかを検証する。

(田原台さつきヶ丘自治会連絡会代表)

最後に、この罾の設置台数の予定は。

(下田原区長)

下田原地区のイノシシ被害は田畑やタケノコなど被害状況は深刻。罾は8基の設置を予定しており、そのうち、5月3日に5台の設置が完了している。

罾を設置すると少なくとも2日に1回は罾の確認に行かなければならない。このセンサーを設置した罾が作動すれば直接設置者のスマートフォンに通知が入るので、負担軽減につながると考えている。来週に支所とセンサーの業者との打ち合わせを行う。

その中で、この実証実験に加えセンサーを活用してイノシシの生息域調査ができないかを提案したいと考えている。生息域がわかれば、イノシシの出没する可能性が高い場所に注意喚起ができる。今回の罾の設置場所には、耕作放棄地に出没した経緯もあり、5基のうち3基はそのようなところに設置している。出没する可能性の高い場所には注意喚起を行い子どもたちが危険ところに近づかないよう注意喚起を行いたい。

下田原の農業従事者にとってはイノシシの被害は深刻で、集ればイノシシの話題になる状態。なんとか捕獲をして被害軽減に努めたい。

(田原台さつきヶ丘自治会連絡会代表)

捕獲したイノシシはどうなるのか。

(下田原区長)

国の方針では、捕獲したイノシシはシビエ食肉化だが、当面は市を通じて焼却処分をする予定。昨年逢坂地区で20頭が捕獲されている。私たちも年間1

5頭の捕獲を目標に取り組みを進める。

(東市長)

最初の買い物支援についてのご質問は、コロナ等が始まる以前から外出等が困難な方にとって買い物に課題があるところで進めてきた。なんとか我々として支援ができればと考えている。

また、罨センサーについて、下田原区長、詳しくご説明いただきありがとうございました。

(下田原区長)

買い物支援について、将来的にドローンやロボット配送が計画に入れていと聞いている。このことをどのように展開されるのか。また、今年度は地区内で1店舗20人、2022年度は3店舗で30人を対象に行うと以前に説明を受けました。田原地区で3店舗となると難しいのではないか。今後の見通しについて説明をお願いしたい。

(田原支所長)

今回の実証実験につきましては、購買意欲や買い物の楽しさを自宅にしながら体感していただけるかの実証実験になる。配送方法については、今年度に自動運転実施計画策定を行う、田原地域内でのラストワンマイル、ファーストワンマイルの移動手段との連携を考えたい。

次に店舗数のつきましては、田原台四丁目ドラッグストアに加え、今回は西部地域にある2店舗から実証実験について承諾をいただいた。この3店舗の協力のもとで実証実験を行う予定。

今回の配送方法については、グリーンホール田原や地域の公園などの拠点まで人が運び、そこで手渡す形を考えている。

(下田原区長)

3年計画の中でドローン、ロボット配送を考えると西武地域からの買い物したものを運ぶことは想像できない。田原地域内で実施するべきと考える。

四條畷市全体の商業の活性化をリンクさせると、この実証実験の位置付け自体が歪んでしまう。当初の予定通り1店舗20人で、田原台四丁目ドラッグストアから始めるのはどうか。



(田原支所長)

今のご意見を踏まえ、田原台四丁目ドラッグストア様とも連携をとりながら実証実験を実施して参りたい。配送についても田原管内で完結できる方策が必要と考える。地域や商業者の皆様と対話をしながらよりよい方向を見出していきたい。

(四條畷市長)

ドローンについては、これから法律が変わってくる。自動運転でレベル1からレベル4、人の運転のサポートから自動運転といったレベルがあるのと同じで、ドローンについても、山の上を飛ぶのと人の上を飛ぶのではレベルの区分がある。

今現在、人のいる地域を飛ばすのは難しい。田原地区で実用化するには規制とも戦っていかなければならない。

今後、実証的な取り組みであれば緩和されていくと思われる。本日まで出席いただいている警察署等との兼ね合いになるが、規制緩和と共に我々のできることが広がってくる。ドローンを飛ばせるようになったときに備え、まずは、実証実験で、たとえば高齢者の方が1回あたりどのくらいの量や重さの買い物をするのかなど情報を集め、規制や法律の変化に伴い進めていく、という順番で考えている。

(田原台さつきヶ丘自治会連絡会代表)

西部地域からの買い物支援について賛成する。ドローン配送についてはもう少し先だと思う。期待している。

(下田原区長)

本日発売の雑誌に茨城県境町でレベル2の自動運転が既に始まっていると掲載された。約5kmの区間ではあるが、公道を走行している。予算規模は約5億2千万円、地方創生交付金で半額が補填されるとのこと。未来技術社会実装事業が絵に描いた餅ではなく、実現が可能と考えている。今後の展開に期待している。頑張ってください。

(四條畷市長)

境町に立ち寄った時の感想では、色々な施策を展開されていて住みやすい

街だと感じるものの、非常に最寄り駅まで遠いので、自動運転の事業に力を入れられている。ここ田原地域とも類似性が高いと感じている。

(わたしのいえ・ほっこり)

子ども教室やスマートシティフォーラムの開催は、コロナ禍において開催は難しいのではないかと。

令和6年度まで実証実験などのスケジュールをお聞かせいただいたが、この先技術が進み、この実証実験で得られたデータが古くなり活用できなくなるのではないかと。

また、田原地域におられる買い物支援が必要な方に、このコロナ禍で協力していただくために、どのような方策をとる予定かお聞かせいただきたい。

(田原支所長)

まず、子ども教室については、奈良先端科学技術大学院大学および日本一前向き！コンソーシアムの協力を得て8月夏休み、現在コロナ禍で状況が日々変化している状況なので、夏休みにできない場合は冬休みにという形で、長期休業中の開催を目標として設定したい。仮にコロナ禍の状況が収まらない場合は、地域の皆様および日本一前向き！コンソーシアムの皆様と一緒に、リモートでできる子ども教室を企画することを考えている。

スマートシティ推進フォーラムについても、10月16日開催を基本としつつ、感染症対策を第一に考え、Web開催等も視野に入れながら検討していきたい。

また、未来技術社会実装事業は技術革新が著しい分野。事務局が「日本一前向き！」コンソーシアムの企業と対話しながら日々新たな情報を入手し、情報が陳腐化しない形で実装を進めていきたいと考えている。

最後に、買い物支援についてはまず市民モニターを募集し、モニターと一緒に実証実験を重ね、その中で拡大できるものはしていきたいと考えている。

(四條畷市長)

これから先もコロナ禍が続くと思われる中で、困っている方が少しでも早く使っていただけるように、実装に進めていけるようにしたいと思っている。なるべく臨機応変に対応できる形で取り組みを進めていきたい。

(奈良先端科学技術大学院大学)

子ども教室について、もう少し具体的にどのようなことを考えているかお聞きしたい。四條畷市は近くて親しみがあるので、ぜひ協力させていただきたいと思っている。

(田原支所長)

田原の子どもたちが一人でも多く未来の技術者になっていただけるよう、取り組みをしたい。

(四條畷市長)

お子さんから高齢者の方も含めて、地域の皆さんに先端技術とはどのようなものかを少しずつ理解していただきながら、一歩ずつ進めていくのが大事だと思っている。ぜひご協力いただきたい。

(下田原区長)

前回、予算の確保が大切だと申し上げた。予算はどの程度、今日ご説明していただいた中で確保ができているのかお聞きしたい。

(田原支所長)

現地支援責任者、内閣府、国土交通省の方々からご助言を頂きながら、内閣府の地方創生交付金を約 584 万円、主に自動運転の基本構想・実施計画に係る費用や自動運転のプレ走行にあてがわれる形で予算措置をいただいている。

買い物支援の実証実験については、市の予算、令和 2 年度補正予算を議会にご承認いただいたうえで、実施していく。約 300 万円程度の予算の中で実施する。畷センサーについては、まずは地域の皆さんと一緒に、力添えを頂きながら実施していきたいと考えている。

(四條畷市長)

地方創生交付金は全体事業の約 2 分の 1 を国から交付金として出しているだけの補助金。今回の我々の事業規模が 1200 万円程度になるので、584 万円の交付を受けられる。先ほどお話のあった境町は事業規模が数億、交付額も数億となっていると思う。どんな事業でも実証を経て次のステップがあるので、まずは実証実験をしっかり有意義なものにしていこうと考えている。

その他、なにかご意見や連絡事項等があればこの場でご発言いただけたらと

思うが、いかがか。お意見がないようなので本日の会議を終了してよろしいか。

(異議なし)

不慣れな Web 開催により開催時にお時間を要してしまい、誠に申し訳ない。

回を追うごとに我々もスムーズに運営できるよう成長していきたいので、どうか温かい目で見守ってほしい。委員の皆さま、お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。以上を持って閉会とする